

県研究主題

社会的な見方や考え方を養い、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成する学習指導と評価の工夫、改善

提案 1

提案者 田川 貴章（横浜地区）

<研究主題>

社会科における「じっくり考え 高めあい 次につなげる確かな学び」を実現する教育課程の編成

— モデル分析やロールプレイから実際の社会現象を読み解く授業づくり —

1 提案内容

(1) 主題設定の理由

生徒の実態として、横浜市学力・学習状況調査の結果などから、知識・理解や社会科の学習に対する関心や意欲の観点が高いことが示されている。しかし、思考・判断・表現の観点には課題が見られ、特に文章を記述する課題や、説明する課題を苦手とする生徒が多い。そこで、体験的な授業展開を取り入れるなど工夫することで、生徒が学習したことを文章化する取り組みを提案したい。

(2) 研究内容

単元構想を流れの中でとらえて経済事象を単純化したモデルに基づき、学習する状況を再現したロールプレイによって、体験的に概念的な知識を学習するようにした。

本単元は、公的分野の価格競争の分野である。架空のパン屋の経営を通して、企業競争などの社会で起こりうる様々な現象を再現し、現象が発生する理由や課題を考えた。このことで、生徒が自ら考え発表するなどの主体的な学びを取り入れ、より深い思考力や判断力の育成を目指した。

(3) 授業の工夫

① 単元構想について

まずは知識をつけることで、その後の活動が有意義になると考え、単元構想を工夫した。買い物などの生徒の身近な経済から興味を持たせ、消費者と生産者の視点から多角的に経済を学んだ。その後、需要と供給の関係を学び、市場原理の学習をしてから、架空のパン屋をモデルに、パン屋の経営のロールプレイを行った。

② ロールプレイについて

実践的な課題を与え、それを解決する課題を取り入れた。例えば、グループで事業計画を作るなど、パン屋という経済主体を自分ごととしてとらえさせ、興味を持って学習に取り組めるように工夫した。また、「パン屋の経営戦略会議」といった具体的な実践例を考えさせ、パン屋の経営や価格競争という視点から、経済の学習に意欲的に取り組む環境を設定した。

③ 前時の知識を生かす

本単元では、先に労働問題を扱うことで、技術革新や労働問題などの既習事項を生かした学習により、深い思考力・判断力を身につけることができることを目指し、単元計画の

段階で、内容の入れ替えをするなどを工夫した。

#### (4) 成果と課題

生徒が主体的に学習に取り組むようになり、生徒同士の発言や会話で授業が進んでいくなど、活発な授業が展開できた。

また、生徒の世の中を見る目が変わり、経済の授業と実際の社会が結びついた「深い学び」を実現することができた。

課題としては、需要と供給の概念を理解していないと、自分で考えたりすることは難しい、ということがあげられる。今後は学んだ知識をどう定着させ、生かしていくかが課題である。

### 2 協議内容

#### (1) グループワークについて

3年生で初めてグループワークを取り入れたが、段階を追っていき、政治分野でも、選挙などでグループワークを行っている。グループが機能するように、各自役割を分担して、やりきる経験を積み重ねていきたい。

一方で、グループワークによって、グループ内で同じ意見を書いてしまう等、一部の意見に引きずられてしまうことも懸念される。個人の意見や考えをもっと引き出していく必要があるのではないか。

#### (2) 評価について

この単元では、価格の性質や、変動によってどういう現象が起こるのかを捉えることをねらいとしていた。全ての価格は需要と供給で決まるという認識を持てていればB評価としたが、他の班の発表を聞いての思考の変容や深まりなどを、どのように評価していくかは今後の課題である。

### 3 まとめ（指導講評）

話し合い活動では特別活動などでの話し合いも一つのポイントになるので、学校全体で統一して行っていくことが一つの重要なカギになる。

また、単元構想のゴールをはっきりとさせておき、この学習の主題は何か、身につけさせたいことは何かを明確にしておくことが必要となる。

思考の深まりはなかなか見取るのは難しいが、最初と最後に同じ問いをもってくると、グループワークを経た上での個人の思考の変容が見やすいのではないかと。また、せっかく話し合ったグループでの意見を発表して授業が終わってしまうパターンが多いが、プラス一時間を設定し、話し合いを深めていくことも考えられる。

新学習指導要領が示されているが、現行の学習指導要領と比較をしてもらいたい。さまざまなことが求められていると感じるだろうが、大切なことは単元計画をしっかりと立て、授業を組み立てていくことである。

**<研究主題>**

よりよい社会の形成に参画するための社会的な思考力・判断力・表現力等を育む指導と評価の工夫・改善

— 歴史的分野における単元を見通した学習を通して —

**1 提案内容****(1) 主題設定の理由**

生徒の実態をみると、一問一答で知識を問われることは得意であるのに対して、一つひとつの知識や事象をむすびつけて表現したり考えたりする力が弱いことがあげられる。そこで社会的な事象について考える力、判断する力、自分の考えを表現する力をいかにして身につけさせるかが課題であると考えた。

その課題のもとに、研究の主な内容としては社会的な思考力・判断力・表現力等を育む学習指導と評価の2つを軸として進めることにした。また授業実践の中で言語活動の充実も必要なことであると考え、他者に自分の考えを伝える活動や学び合いの活動も取り入れることにした。

**(2) 主題を具現化するための手立て****① 学習評価の工夫・改善**

各単元の冒頭に「単元のまとめと課題」を生徒に説明し、単元の学習が終わった段階で、どのような思考・判断・表現等ができるようになればよいのかを説明した。単元の課題を具体的に設定することで、生徒が見通しを持った学習ができるようにしようと考えた。既存の知識や学習によって得た知識のもとに、課題に対して深く考え、自分の考えを文章で表現する力を身に付けさせようとした。

また、常に生徒が当該単元のゴール、すなわち「単元のまとめと課題」を意識しながら毎時間の授業に取り組むことができるように「単元カード」を作成し、この時間の授業の振り返りができるような取組を行った。

**② 学習指導の工夫・改善**

生徒が学習課題に対して主体的に取り組むことができるように、学習の見通しと振り返りを意識して、毎時間の授業後に「単元カード」の記入を行った。

また、思考力、判断力を身に付ける指導の工夫として、社会的な事象を図式化してまとめたり、因果関係を簡略化したりする課題を設定し、それらを用いて単元のまとめと課題に取り組めるような授業の構成にした。その際、自分の考えを文章に書くだけでなく、そのように考えるプロセスを言葉で説明する場面をつくり、生徒同士が互いに自分の考えや意見を伝えたり、教え合ったりする言語活動、表現活動を取り入れ、学び合いの活動を行った。

**(3) 成果と課題**

単元の冒頭に「単元のまとめ課題」を提示し、単元の学習開始から終了までを常に生徒に意識させながら授業をすることで、生徒たちは見通しを持って授業に取り組むことができた。社会科に苦手意識を持っていた生徒が、どのようなことが理解できればいいのか、獲得したい力は何なのかという見通しが持て、そこに向かって学習しようとする意欲が見られ、一定の成果をあげることができた。また、自分の考えをいきなり文章にして表現することは難し

いが、その前段階として図式化したり、思考力の高い生徒が思考のプロセス（どうしてそのように考えたか）を発表したり、互いに教え合う活動を行った結果、これまで個別の事象を羅列することしかできなかった生徒が、それぞれの事象をつなげて考えることができるようになり、より多くの資料を結びつけて事象を説明できるようになった。

今後、公民的分野において、他者との議論を通して考えを深めることのできる学習活動の実践をめざしている。そのため、歴史的分野で磨いた自らの考えを思考・判断・表現する力を、公民的分野においてもいかに連続的に育てていくか、そのための指導法を確立することが今後の課題である。

## 2 協議内容

単元の終わりに行う「単元のまとめと課題」を通して生徒の思考力を評価することに関して、どのような文章を書けば思考力があると評価するのかについて質問が出された。提案者からは各事象の羅列ではなく、事象と事象、既存の知識や新たに獲得した知識を結び付けて考えられることや、関連資料を結び付けて説明できていることが、思考力の評価の判断になるということであった。しかし、本来、思考とはどういうことなのか、また思考の変容をどのようにして見とるのかについても考えなければならない。思考の変容については、単元の最初と最後に同じ質問をすることで、その変化を読み取ることができるのではないかという意見が多く出された。自分の考えを文章にして表現することはなかなか難しく、すべての生徒が取り組めるようにする工夫として、思考過程の段階で図式化したり、思考プロセスを互いに教え合ったりするなどの指導工夫も有効であるという提案者からの実践報告があった。

思考力そのものについてもいろいろな考え方があがるが、例えば自分の考えたこと、疑問に思ったこと、なぜこうなったのかなど、学んだことから新たな疑問を抱いたり、自分の感じたことなどを整理して100字程度で書いたりすることで、思考力を評価できるのではないかという意見も出された。

## 3 まとめ（指導講評）

単元全体を見通した「単元のまとめ課題」と「学習カード」の形で示される毎時間の学習課題があることで、生徒にこの単元を通してどのような力を身につけてほしいか、獲得したい力は何なのかを明確に示すことができた。社会科が苦手な生徒にも、どこがゴールなのかがわかりやすく、自分の学びを実感できるのではないかと感じられた。

生徒が意欲を持って学習するためには、生徒自身が、今、何をやっているかがわかっており、さらに、どうしたらこれを調べることができるのか、これをやりたい（学びたい）と思う気持ちを持つことではないかと考える。また、生徒たちが互いに教え合う場面をつくり、その中で自分の考えを持ち、さらに人に話したいという気持ちを持つようになることで、どの生徒の学びも保障することができるのではないか。話したいとは、すなわち話すための自分の意見があるということである。

資料を図式化したり、思考のプロセスを教え合ったりすることから、それまで自分の中になかった思考の仕方、判断の仕方、表現の仕方を学び、自らの思考力・判断力・表現力等を高めることができるのではないか。公民的分野では、自分の考えを他者に伝え”議論する”というところへつないでいこうとする見通しを持った学習指導の工夫が求められる。